反日自虐史観からの脱却

新年明けましておめでとうございます。年頭の辞ですが、ここに述べているのは論文には価しない私個人の想いであると御承知願いたい。

今年は抗日戦争勝利７０周年（中国共産党と日本は正式に戦ってない)、日韓基本条約５０周年等、戦争に敗れた日本に対し、倫理的に優位に立ち自己を正当化する為、戦後秩序を日本が崩そうとしていると宣伝している。中国の屈辱の歴史からか、又、国内の不満を外に向ける為か、周辺国に迷惑を撒き散らしながら日本の国際的孤立を狙って反日宣伝を強化している。

今やこの宣伝効果は日本の同盟国、法治、自由と民主主義、市場経済の価値が同じ国、アメリカの有力新聞や教科書業界迄に及び、安倍首相や日本を批判するに至っている。我々は**「言われなき」**際限のない歴史戦の淵に立たされている事を自覚すべきだ。

カリフォルニア州グランデール市の慰安婦像。左端が有名な反日議員のマイク・ホンダ

これは日本という国に対する劣等感の裏返しの心理か、恐怖心の裏返しか、又は復讐心からかは知らないが、誠に迷惑な話ではある。フィリピン・ベトナムに対する領土拡張等、平和を乱す暴力の拡張を防ぐ為には抑止力の強化以外、中国・ロシアに対しての妙薬は見当たらない。**国の覚悟を望みたい**。

国内に目を向けると、安倍首相の戦後レジームからの脱却が理解され、選挙で経済再生・集団的自衛権・教育基本法の改正等の主張が認められた結果は日本の未来に希望を持たせてくれた。戦後レジームからの脱却とは、制度的には憲法を中心とした戦後体制であり、精神的には東京裁判に起因する反日自虐史観や精神的自立性の喪失からの脱却である。

その為に我々が心掛ける**第一**の事は、まず国体の維持の為に天皇制を学ぶことに尽きる。それは皇室の安泰と成就を学ぶ事である。皇室の御安泰とご清栄は日本の安泰と繁栄の最大の拠り所だからだ。日本の伝統は象徴天皇制であり、政治に左右されて評価が変わるようならそれは文化ではないが、常に天皇の伝統的権威が日本の歴史を貫いて存在する事実は他国には見られない文化である。それは天皇が国民全体を表現するが故に生じた権威であって、国法の定めによって成立されたものではない。この権威は厳密には国家成立に先だって存し、又、国家の統一が失われた時にも存続した。国民と天皇の関係は武家政権以来長らく希薄になっていたが、明治以降、**特に戦後憲法によって**深く回復された。歴史を深くひもといた時、感情的・政治的なものを越えた天皇の意味が見えて来るような気がする。天皇は我々の父の如く肌身で感じさせられる文化なのである。さらに我々は深く陛下の御心を学ばねばなるまい。

二つ目の心掛けは安全保障について学ぶ事である。これが万全でなければ経済の発展がないし、文教の振興もない。野党は自衛権見直しや憲法を改正すると戦争になり、徴兵制度が敷かれ、子供や夫を又戦場に送られると**「駄々っ子」**のように主張し、**「立憲主義の否定だ」**とか、何だかんだ訳の分らぬ意味不明な宣伝を朝日新聞などが行っている。日本の左派リベラリストのマスコミ人は思想的結論が先にあって、理由をねじ曲げでっちあげた東京裁判史観を忠実に守り、それと同じやり方で虚偽虚飾の報道を世界に撒き散らし、日本の信用と誇りを傷付ける大罪を犯した。それに加え、厄介な周辺国の反日言動に対し過敏に反応し、無意味な迎合や友好などと阿(オモネ)る態度が反日を助長する元凶であると、日本国民は認識すべきである。彼ら反日左派たちは、中韓の外部からの圧力により日本国内に於ける反日思想、自虐史観、自国嫌悪感を持ちつつ、外国に移住もせず国内に住みつつ自国を攻撃する生活を送っている・・・・・。この不思議な国内問題こそ日本を駄目にしている最大の元凶である。世界中で自国にこれ程嫌悪感を持つ教育を行い、過去の日本の全てを悪いと思い込む極端な歪み感情を持つ国があるだろうか**？**　これを中・韓・北は承知して「弱み」として突いている。

ソウルの反日デモ集会に参加した岡崎トミ子元議員（左端）。民主党はかような人物を国家公安委員長に任命していた。

正常な愛国心や国家観、自国文化への愛着は国際社会に足を置く国民の最低限の条件であるはずだ。自国に対し自虐反日の感情を持ちながら、他国に良識人の顔を向けるような民族や国を誰が尊敬してくれるだろうか？この種の人達は本当の歴史や文化を知らぬ、東京裁判史観に毒された人達である。この種の人達はマスコミ人や学者に多いが、この人達の病根は依存心・甘えの精神の持ち主で自国に対する自信も誇りも無い。この依存心・甘えの心は自らの安全と生存をありえない「平和を愛する諸国民の公正と信義に信頼する」と宣言した現憲法の精神性から生じている。国際法を無視し、傍若無人に振舞い、歴史を捏造し、己の国の失敗を他国の所為にし、信義なき振舞をする国など存在しないと・・・・、我が国の周辺を見回してもまだ信じているのだろうか？

ソウルの刑務所跡地で日本統治を謝罪する鳩山由紀夫元首相

国を護る毅然たる志もなく、他国に依存する人間に自国の主権や自立、自存の精神など生まれようがない。自分個人だけの安全を計る身勝手な、卑怯な、己の臆病さを巧妙に隠す平和主義論者に、国を語る資格はあるまい。**日本の危機の最大要因は国内の反日自虐組織の存在であり、暗躍であると思っている。**

その三は教育の意識改革を学ぶ事である。我々は鹿児島に学びの旅を行ったが、鹿児島の郷中教育に今後の２１世紀の日本人が志す教育の原点を学んだ。今後の教育は近代国家発足時の偉人を、あの小さな町「加治屋町」に多数輩出したのは瞠目（どうもく）に値する。

注）郷中教育
郷中（ごじゅう）は、薩摩藩の武士階級子弟の教育法。類似するものに会津藩の「什」がある。起源は島津義弘によるとされている。また、郷中が教育組織としての機能を発揮するようになるのは江戸時代中期以後の事であり、現存する藩の法令でも郷中の綱紀粛正と文武奨励を命じる文章が出されるなど、その運営に注力した事が明らかにされている。

この様な幕末から明治初期に至る教育の原点こそ戦後教育の原点とすべきだ。戦後レジームからの脱却の先に「なに」を目指すのか、今からその目標を明確にすべきである。それは**「徳育道義国家」**である。そのお手本は教育に関する勅語や五箇条の御誓文の精神に内在するものであり、日本がこれから先、向かうべき方向を示したものであり、万世に亘る国是とすべきものだと信ずる。明治を貫いた時代精神は毅然朗志であった。その精神を引き継ぐべき日本人の中で卑小、いじけ、反日の精神を持つ現代人は明治時代の歴史への感受性を磨く必要があろう。我々もこの問題は深く学ぶ必要がある。左派リベラルの人達が主張する人権、民主主義も戦後アメリカから教えられたものではない。五箇条の御誓文、教育勅語、明治憲法に明確に示されている。日本は西洋文明の学ぶべきは学びつつ、決して西洋流の思想に流されず、あくまでも日本の歴史・文化の背景をしっかり持った思想を持つべきであり、「単純化」、「マニュアル化」された左派・右派・西洋流の思想に傾かぬ「日本精神」を自ら考え、創造し、自らの意思で練り上げて、判断の基準にすべきである。私達は西欧・中国・ロシアの覇権文化に巻き込まれてはならない。私は日本を「徳育道義国家」として甦えさせる為には憲法改正を実行する必要があると思っている。やっと日本の戦後レジームからの脱却を唱え、憲法を改正する機運を作った首相が出現した。

私は戦中の状態に戻ってはならぬと思う一人であり、敗戦は天が与えたものだと思う一人でもある。日本は大東亜戦争で、結果的にアジアを代表して戦い、アジアを解放し、白人至上主義・人種差別・帝国主義・植民地主義に終止符を打つ大きな機運をアジアにもたらした。日本も軍国主義を断ち、君主民本の道を、まだ反日思想が国内に残っているものの、正常な日本主義に目覚めて、ちょこちょこながら歩き出した。今、日本は戦後レジーム脱却の為の生みの苦しみという試練の時期だと思う。私は日本の敗戦はアインシュタインの予言を実現する為の天の采配だったように思っている。戦争には負けたが、戦争の目的は果たした。即ち日本の敗戦は**「偉大なる敗北」、「意義ある敗北」、「名誉ある敗北」、「天による必然的敗北」**であったと信じざるをえない。でなければ国の為に命を捧げた戦没者や特攻隊の若き命に対する冒瀆になるであろう。

注）ククリット・プラモード（タイ元首相）の言葉
日本のお陰でアジアの諸国はすべて独立した。日本というお母さんは難産して母体をそこなったが生まれた子供はすくすくと育っている。今日、東南アジア諸国民がアメリカやイギリスと対等に話ができるのは一体誰のお陰であるのか。それは『身を殺して仁をなした』日本というお母さんがあった為である。12 月 8 日は我々に、この重大な思想を示してくれたお母さんが一身を賭して重大決意された日である。更に 8 月 15 日は我々の大切なお母さんが病の床に伏した日である。我々はこの 2 つの日を忘れてはならない。

肇国(チョウコク)以来、初めての敗戦によって、日本人は国の尊厳を捨て、国民も矜持（キョウジ）を擲（ナゲウ）ち、利己的、拝金思想に陥り、醜態をさらし、反日思想

による教育の生みだした現状の歪みを見れば、亡き人達の為に、残された我々が何かの運動や学びを広めることが人の道であり、彼等の国を想う勇気ある行動に深く感銘し、学ぶ必要があろう。

私達はその為に歴史や文化を学び、少しでも明治の日本精神に近づき、英霊の望んで止まなかった真の平和日本の道を、南洲翁や明治建国の精神を学ぶことによって身につけ、徳育道義国家の再創成の為に行動すべきであろうし、我々日本民族は東洋諸国の為に東洋の王道の干城として、又、アジア諸国の守護神として、世界平和へのリーダーとしての道を歩むべきである。南洲翁は「文明とは道の普(あまね)く行わるるを賛称せる言にして、官室の荘厳、衣服の美麗、外観の浮華を言うに非ず」と述べておられる。如何なる事にも道が行われねばならぬ事を説いておられる。

即ち、鹿児島の郷中教育の基本はここにある。又、知覧の特攻の写真や遺書からは自分達が命を捧げた理由を知って欲しい、美しき日本の創成という自分達の目的を早く実現してくれ、と訴えているように思えてならなかった。そして私は涙した。そして私は決意を新たにした。**彼等の死を決して無駄にはしないことを　！！**

合掌

２０１５年1月１２日

志雲会塾長　有馬　正能